

会派視察・研修報告書

会派名 公明党

代表者名 寺島 芳枝

1 日 時	令和 3 年 7 月 20 日 (火) 13:00~16:35 ~21 日 (水) 9:00~12:30
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	各自でオンライン研修 主催：公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所
3 参 加 者	寺島 芳枝 渡部 昇 片山 竜美
4 調査・研修のテーマ	令和3年度第2回市町村議会議員特別セミナー（オンライン）
5 主な内容	<p>① 本当の意味でも「健康しが」へ 講師：三日月大造氏（滋賀県知事）</p> <p>② 改めて議会とは何かを考えるー政治学の知見から 講師：曾我謙悟氏</p> <p>③ 人口減少社会における地方自治体の役割 講師：加藤久和氏</p> <p>④ Society5.0時代の到来と行政のデジタル化 講師：越塚 登氏</p>
6 所感、提言事項、課題等	<p>【議員氏名】寺島芳枝</p> <p>現職2期目50歳の三日月知事、民間企業を経て国会議員との経験が生かされ座右の銘「着眼大局 着手小局」を実現されている講演でした。特にマザーレイクゴールズ (MLGs) 2030年の持続可能社会の実現を目指す、滋賀県独自の目標「琵琶湖版のSDGs」による具体的な発信（13の目標）は素晴らしい。</p> <p>また、「自動車中心のまちづくりから歩きたくなるまちづくりへ、歩くことで人とひととの交流が生まれる」という考えで、利用者だけでなく、地域で公共交通を支えるとの理念で「交通税」という選択肢に挑戦している。さらにこどもの笑顔を増やしたい、こころに寄り添いたい等、どの施策にも、何の為が明解で分かりやすい。市町の施策を導き、財源を応援、安心をして進めていけるのではないかと。</p> <p>「死生懇話会」を行うという発想は、「死」と向き合い「生」をより一層充実させる、誰も取り残さないとの意思が伝わってきた。</p> <p>本市の本庁舎建設も何の為、どうしたいからとのメッセージ性（構想）が大切だと改めて思った。</p>

<p>6 所感、提言事項、課題等</p>	<p>【議員氏名】 渡部 昇</p> <p>① 地域のために、人びとの幸せのために、未来ある子どもたちのために、現場に行ってみて行動する、現場主義が重要であると感じた。コロナによって再認識、人・社会・自然のつながりの大切さ、未来へのバトンをつなぐ大切さ、持続可能な社会を目指していきたい。</p> <p>② 議会での決定は、答えがそもそも一つではない、議員各自がこれが答えである、というものを持ち、その上で集団として選ぶ必要があることを感じた。</p> <p>③ 今後、50年間で人口の1/3の人口が失われるとき、現在の市町村がそのまま続くと考えることはできない。したがって、地域(市町村)だけで解決できる問題は限られている。時間とともに地域の内在的な力に限界が来ることも考えるべきである。</p> <p>デジタル技術 (IT、ICT) はそれに合った仕事のやり方をしないと有効に働かない。制度改革・業務改革・組織改革が鍵、働き方や組織構造、業務プロセスを変えなければ、単なる負担増になると感じた。</p> <hr/> <p>【議員氏名】 片山竜美</p> <p><三日月大造知事></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の中心という立地を生かし、積極的な政策を進めていた。中でも子どもたちから3万件以上のアンケート調査を行い、それを「すまいる・あくしょん」という形でしっかりと政策につなげようと尽力され、それを大人版にも展開する等大変参考になった。 <p><曾我謙悟氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会として、議員それぞれが多様な考えを持ちながら、ともかく1つの決定をするだけでなく、答えを全員で探しに行くことも大切であることを学んだ。 <p><加藤久和氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少に伴い、地方行政の体制の在り方として、「広域連携」や「外部資源の活用」が必要であることを学んだ。また、地方創生で考えるべき視点として「若い人が主役の長期戦略」や「コンパクトな地域計画」「老学歴・20-39歳女性が満足する拠点づくり」であることを学んだ。 <p><越塚 登氏></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術は、それに合った仕事のやり方をしないと有効に働かない。したがって、DXは、「制度改革・業務改革・組織改革」が鍵であり、働き方や組織構造、業務プロセスを変えなければ、デジタル技術は単なる負担増になることは、わかっているにもかかわらずなかなか取り組めていない現実である。これからこの点に注目して行政改革を提言していきたい。
<p>7 写真等 ※視察の場合は必須、研修の場合は任意</p>	